



講 話 通 信

「赤い鳥」の復刊

鈴木三重吉

多くの熱愛家諸氏の御賛同と、なみ／＼ならぬ御盡力と、多数の教育行政家諸氏の御後援により「赤い鳥」もついに復刊し得ました。一人私どもの歡喜だけにはまゝまりません。六月に再刊の運動にかゝりまして以来、私を御激励御慰安下さり、又は御教示、御計劃下さった方々の信書が、私の座右に、うづだかく積み上げられてゐます。一々の御懇情にたいして家内たちと共に涙ぐんだりしましたのはもう過去で、今では、私の責任の重大な點でかたくなつてをります。私の健康をもつと

く重んじて、永く努力いたします。これを申し上げますより以上に、より適切なお禮の言葉を探り得ません。第一號は、ほさんご、創刊にひさしき過難なくつただけに、私じしんでさへ満足し得ない出来ぶりです。お話が、ほさんご西洋くさいものばかりであるなぞも一つの大きな缺點です。しかしだん／＼に改善しますから、これで憤つたり失望したりして下さいませぬやうに。記者たちが不馴れなので、一さいの事務を一人で執りましたやうな形で、内容の整頓に手とどかなかつたことは、十分自明しつゝしてゐます。作家の都合で、いろ／＼のアテはづれもありました。

「赤い鳥」が中絶しましたにつきまゝては經濟のより方が不注意なのではないかと、内容においてこれ／＼の點が兒童の興味に肉薄し得ないのではないかと、いふごとき、熱愛から投じて下さつた、いろ／＼の御氣附けもいたゞきました。私の見ますところでは、「赤い鳥」が中絶したのは、敢へていひますそれは最多く、全兒童の保護者も全教師の方々の大多数が「赤い鳥」の必要を感じて下さらなかつたからです。「赤い鳥」は過去に十一年つゞきました。しかし私が發行者でなかつたらまづ四年ぐらゐで倒れてゐたので最後の七年は苦闘につぐ苦闘でした。多くの

人々は、兒童の讀物といふことについて無關心です。おどろくほど平氣です。かう申して来ます。「赤い鳥」の中絶は一面には、宣傳がなかつたからだとも言へるわけです。私は宣傳といふものは下品なこと、又宣傳は大きな新聞廣告などをすること、お金なくては出来ないこと、自分は雜誌の内容を作るのにそがしくて、そんなヒマはないもの、くらゐに考へてゐました。講演もきらひでした。研究も、煩悶もしない人に講演をしたつてムダだと思へてゐました。しかし、それはすべて誤りで宣傳をしなければ多くの人に認められないのは言ふまでもないことです。

今度、復刊に際し、方々の中心者諸氏の御熱誠にたいしてお禮をいふ意味からも、私は違ひよろこんで講演に出ました。六月には千葉縣木更津市、埼玉縣熊谷町、山梨縣韭崎町、七月には岐阜市、下谷區、府下本町、千葉縣茂原町、八月には仙臺市、千葉縣成田町、十月には廣島市、吳市、福山市で講演。この十二回の來聴者は教育家諸氏ばかりで、全數約四千名、廣島市のごときでは約八百名の人々に向つて五時間以上わたつて長講しました。

愉快にお話しなしました。そしていたるころで「赤い鳥」への多くの理解と共鳴とを得て来ました。

私は今度の復刊について、各地の中心者諸氏への謝禮として、又「赤い鳥」を盛大にする責任から、出来るだけ多くのかた／＼の理解と加盟とを得る爲めにも、逐次全日本を講演して歩くつもりです。

「赤い鳥」は内容をそろへるのがむづかしいので、今後しばらくは紙数を増さず、會員が多くなるにつれて、追々に定價を引き下げる方針です。會員がどん／＼ふえてこれだけの「赤い鳥」を低價で分けられたらごん／＼に愉快で又ごん／＼に廣く迎へられ、従つてごん／＼に多く教化の効を上げ得るでせう。

過去の「赤い鳥」にすべてを投じ盡した私には、もう、これからは、缺損をうめて繼續するごとき資力がありません。それで、だん／＼に會員が減じて、立ち行かなくなりませぬ、いや應なく廢刊しなければなりません。

會員諸君よ、しかし、もう二度と「赤い鳥」が倒れませぬやうに、永久に御支持下さい。みなさんの御誠意の持ちよりに出来てゐる雜誌であることをお忘れ下さいませぬやうに。そして、ごうか、一人でも多く入會者を得ますやうに御盡力をおれが申します。あ、これで、亡びかけた自由詩、「赤い

鳥」が生み出した、過去、現在の世界中に例類のない、絶大の兒童藝術たる自由詩も生きかへります。「赤い鳥」の中絶の間、兒童の世界に寄與されることなかつた北原白秋の童話も又こん／＼と、そゞり出されます。また山本鼎さんが、に／＼として自由畫を見て下さいます。これだけでも、ごん／＼に兒童のための大きな歡びでせう。

そも／＼私「赤い鳥」を出しましたのは、最初、私の娘「すゞ」を得ましたとき、さても／＼ありがたくて、うれしくて、生れたばかりの晩に、もう、玩具をかひに出かけて人々に笑はれ、その翌日は、又出かけて子供の讀みものをあさつたのがもごです。私は「すゞ」に分つても分らなくても、寝てゐてもおきてゐてもかまはず、あの子のために、うつくしいお話を讀んでやらうとしたのです。そして本屋をまはつて、子供のよみものが俗悪で下劣なのに呆然としたものです。

それで私は、創作の餘閑に童話をかきにかゝりました。第一にかいたのが「湖水の女」です。その後、童話雜誌を作ることをおもひ立ち、出版業者に計りましたところ、私のやうな深僻家の作る雜誌は世間にうけるわけがない、結局損失をはるさいふので引きうけてくれませぬ。そこで、憤然として立ち、獨力で「赤い鳥」をおこしたのです。最初は、

ほさんご私一人で勤めました。その過勞のために半年にして神經衰弱からセンソクをおこしました。注射薬のあることも知らないので發作がおこると三日でも四日でも、晝夜を分たずひゆう／＼汗みづくになつて、あえぎつゞけました。その中でも「赤い鳥」の話をかいたり綴方を選したりして、一冊でも發行をおくらしたことがありませんでした。そのセンソクは十二年後の只今でも治りません。私は馴れない經營や編輯や、童話をかくので全時間を奪はれ、創作に向ふことも出来なくなりしました。子供のために日本の文化のために區劃的な事業をはじめたといふ、ひそかな誇りと熱さをもつ反面には、實をいふさまだ年も若かつたので、創作家としてうたはれることがなくなるのが、ひびくさびしくもあり「赤い鳥」をはじめてこのことをそかに悔いたりしたものです。或人々は私の創作のなくなつたことを楽しんで、ひびい諷言もしてくれました。

昨年休刊しましたときには、兒童のためには残念でしたが、一方で永い勞苦からはなつたもので、本當をいふ一面にはとてもほつたことでした。そのときにももう再刊の見込みもないのか、私自身にも再びあの苦難をする氣力もないことを自覚しました。それからからだを養つた上、再び創作家として立たう

と決心しました。そして某新聞へ、その秋から創作を出すつもりで構想にかかりました。そのうちに翌三月につまりない災難で左脚を折りました。その切開手術では、命をおとすかくまでしました。入院七十五日。出てからも遂に十一月まで百五十日間全く地獄のやうに苦しい治療をつゞけました。入院中、足をつきのばしてゐた、めに左脚の膝がまがらなくなつたのを、からだをうつぶせて、足をおさへをりまげる痛いく、加療です。

生れもつかないびつこになつた私は、十二月に入りびつこなりに又乗馬をはじめました。そして歸ると、創作の構想にふけりましたが今度は十二年前「赤い鳥」をおこしたときとは反對に、私が兒童の世界をすて、下手な作家になることは、何だか罪惡なやうな気がして、又一ど「赤い鳥」の旗上げがしたくなりました。しかし、私を愛してくれてゐるすべての人は諫止しました。あけて二月に、私は私の馬の少年團の練習につゞ立つてゐる風をひき、肺炎と、肋膜炎を併發して、もう少しで死ぬころでした。この復刊號に衛生生活をかいて下さつた金杉先生のおかげで、救はれたのです。

再びいきかへつて見ると、このおもひがけなく奇蹟された残りの命は、一さう意味ぶかい仕事に使はなければならないとおもひま

た。そこで又「赤い鳥」のことを考へ、敢然として決心したのです。只今(十一月二十九日夜)會員は六千二百餘名。ほかに廣島縣支部でなほ二百名増加の快報がありました。横濱の中心者のかたの手もさになほ三百餘名集つてゐるさうで、さつと六千八百名はたしかです。以上の私の真情やお願ひをもつて復刊の言葉といたします。

### 兒童自由詩について

北原白秋

「赤い鳥」が復活した。この聲だけで童話も兒童自由詩も再び救はれたやうな気がする。殊に兒童自由詩はしばらくその指導雜誌を失つたために、全く火の消えたやうな状態に置かれてゐた。私も心から痛嘆してゐたが、どうにもならない一年間であつた。今後こそいよいよ更生するであらう。各小學校における直接の指導者諸氏と私はこの喜びを共にしようことを喜ぶ。

本號に掲載した作品の全部は、休刊當時私の手に遺されてゐたものから選出したのであるが、この間に時は過ぎた。中には尋常も高等も卒業した生徒たちもあらうと思ふ。次號

からは新作をどしどし寄せられたい。

推奨についていへば、向山君の「知らない人」は少年の眼や心に映つた知らない人の姿や動作が、いかにも心やすげでなつかしきを持つて現はれてゐる。後を向き／＼もいしかばんの影もいじ、帯の白いのもい。誰にもあることではあるが、かうした機微をよく捉へてゐる。桑野君の「夕方の雀」は寒々とした夕方の子雀をよく観てゐる。木の株へはいる姿と鳴聲とを、ちよけ、ちよけ／＼としたのがよい。林さんの「子供」、真白な茶山に茶の木をたべてゐる子供が可憐である。すべてが白い風景の中に、ぼつりとした小さな子供が立つてゐる。山口君の「池の水」では、つかい月がよい。殊に、からまつ林だからよい。電信柱もよい。武光君の「夜」では三日月の細いのがよく、蜜柑も青いからしみみ冷たく感じられる。ふところからみ出てゐるでなほさらししみみしてゐる。梶原さんの「月夜」の中の月と猫と光と影との戯れが、寫生としても確かで、よく浮き出してゐる。私の歌に「白き猫遊べる見れば月かげのこぼるる庭にひざり戯(あざ)れぬ」といふのがある。同じ姿である。石澤君の「朝」、これは朝霧と香の高い柘榴が清新である。殆の短くなつたのに気がつくところも少年の生長期を思はせる。きりつとしてゐる。

これで選評は終つたが、ついでに皆さんに御紹介しておくことが二つある。

一つは今度ロブス書房から堂々たる「赤い鳥」が出版されたことである。この「赤い鳥」での投稿童話の、初期から最近に至るまで、十一年間の傑作選集である。推奨級の作品を厳選したものであつて、まさに日本新童話の本流たり、標幟たるものである。是非讀んでほしいものである。

二つには「赤い鳥」の新人たち、奥田準一、巽聖歌、藤井樹郎、岡田泰三、田中善徳、有賀連、多胡羊齒、柳曠その他の諸君が、私の顧問の下に童話の雑誌「チノキ」(乳樹)を發行したことである。清算期における日本の童話界に大いに本流としての旗幟を闡明するであらう。同じ精神の上に立つ新人の加盟を希望してゐる。さうしてこの「赤い鳥」の童話欄と呼應し清新にして力ある童話運動を起すべくしつかり考へてゐる。委細を知りたい方は東京市外東中野一六七五奥田君まで御照會ありたい。なほ、本誌の童話は改めて新しく大いに募集する。

### 綴方講話

鈴木三重吉

以後だん／＼にくはしく講話しますが、綴方の指導については、私が毎號製作をかかげて鑑賞批評をする、この選評が何よりも御参考になるのですから御注意下さい。つまりこれによつて、綴方の實質といふものは、どんなものであるべきかが具體的に分り、めい／＼の兒童の作をどこまで導き上げて來なければならぬかの標準もつくわけです。言葉をかへていふと、私の鑑賞を味覺することによつて綴方の批判力がぐん／＼養成されるのです。作品をどこまでいふところか、いふのが、どういふところが缺點となるのかといふことが、製作的に、しぜんと飲みこめて來ます。この修得そのものが指導の實力となるのは言ふまでもない話です。つきには兒童の綴方を引上げていく手段としても、みんなの製作を、私の鑑賞のまほりに味つて、作の部分と全體との價値を飲みこませること、同時に一面には、必ずすぐれた入選作をよまじ、それを私の鑑賞のまほりに警め味はせること、この二つによつて、しぜんと、兒童の觀察を導き、感覺を鋭くするより外には事實何等の方策もないのです。この意味においても、綴方の成績は一に指導者の、行きとゞいた鑑賞力(つまり批判力)によつて上下することになるのです。今私は、綴方の價値といふ言葉を使ひました。その價値とはどういふものか、

それはいつか秩序的に講話する際に十分解剖してお話しいたします。さもかく、以上の點に、私の選出作と選評との重大な役立ちがあるのです。たゞし、選評は何分にも限られた紙面でのことでですから重要なことのみを上げて、小さいことは省略する場合もありませう。ですから、私の言つたことが常にその作について言はれるべき全部ではあり得ません。私の言つた例にならつて、残り的一々を、もれなく鑑賞して下さい。必要もあるわけですから。今度の作について言ひますと、佐々木節子さんの「およめさま」は、二年生としては、おどろくばかりに、自由にぐん／＼寫し上げてゐます。年少のために、表出(言ひあらはし方)はむろん幼稚ですが、しかし、表出としては混雜も滯滞もなく、立派にまゝのつてはつきりしてゐます。全たいの感受(見た事柄を、寫眞の乾板が反應するやうに、頭に受け入れる、そのうけ入れ方)が、あぢけなくうぶ／＼してゐるので、普通ならをかくも何さもない事業(事ながら)までが、しぜんのユーモア(純な滑稽)を帯びて、おもしろくはなされて來ます。たゞ、盃の盛りかにはじめるところで、一ばんはじめ、變なものをもつて來て、變なものをはひるけて、變なことを言つて字をよむといふのは、感受と

表出さが下足なため何をもつて来て、何をひらげて何を言つたのか分りませんが、その分らないといふことそのものさへ、叙出の缺點とはならないでかへつて、子供らしくて、かはいくつかしいくらゐです。それからつゞいておもしろいお嫁さんこの名をよみ上げるまゝになるまゝ、その何でもないことにも、純滑稽味があつて微笑されるではありませんか。その前のまゝで、よむのを聞いてゐるさ、だん／＼聲がちがひますとあるのは、だん／＼聲がたかまつて来る意味でせうが、その表出も、滑稽味をもつてゐておもしろい。祝言の三つ組の盃と銚子との感受も、盃のうけたしとのまゝの表出も、お嫁さんの着物の感受も同じくかはらなくて笑へて来ますお嫁さんが来るまでの酒宴のまゝでも、太鼓をたたくの目をつぶつたまゝ、く人もありつぶりないでた、く人もあるといふまゝお父さんが手な、くまきに手なでまはし／＼して目をつぶつた、くといふ叙寫(うづしゑ)がくこゝ。描寫)なども、あざけなくして滑稽であり、且つ場面が實感的に出てゐます。(實感的といふのはわれ／＼が、その實さいな見て感受するかのやうに、まざ／＼と活寫して見せてくれてゐるといふ意味)

筋子さんが、のぞいて見てゐるまゝ、よそ男の子が、おぶさりが、るやうにして、の

ぞき／＼するまゝなまゝも、こんな場合の實際が動いて浮びます。すぐれた特選作です。そのつぎの篠崎タニ子さんの「小猫」は、たゞ猫をもちいられた家まで抱いていつて、おいてかへるまでの、言はず何でもない平凡な事象の叙寫ですが、すべてがかなりよく實寫(實感的にうつす)されてゐるため、中々味のある、あかるい傑作になり得てゐます。まづ第一に、すべての對話が、いき動いてゐます。これが各の場面々々にまざ／＼した實感を與へてゐることに注意しなければなりません。對話の上手な叙出は、説明なしに、人物や場面を活寫する效力のあるものです。猫をつれていく途中で、「こ、は、はつちやんまゝの、せごだよ」と、頭をかくした猫をたしへるまゝは、子供らしく可愛く、猫をだいていく際の気分もよく浮んでゐます。猫が、勝手のちがふ家へおろされたのでおどろいて、目を圓くし耳をツツ立て、「ろくに歩かずにゐた」といふ、あの叙出なども實寫的でおもしろいです。

つぎの市毛道也君の「みなほし」は、休刊のころの傑選の中からまつたので、同君は今では卒業してゐるでせう。六年のまゝに「姉さん」なぞの傑作を出した同君です。今度の「みなほし」は、取材が取材だけに、おどろくほどの傑作ではありませんが、農家の日常

の或空気を、ふつくりとまがき出した、叙出の自由な、寫生的ない、作です。いふまでもなく對話が生き／＼した全内容を形づくつてゐます。お父さん、箕直し屋やお母さんとの對照も、すべての三人の氣持の動きもがまざ／＼とよく出てゐます。特にごがよいま光つたまゝを上げることは出来ません。全部が、すまなく實寫されてゐるわけです。お父さんが、あこで、遠くへいつた箕直しによびかけられるまゝ、箕直しがぶん／＼おこつて見かへりもしないで行つてしまふまゝ、をかしみ皮肉があります。

原澤君の「兎殺し」は印象づよい寫出です。第一に對話がいかに實感的で活きをもつてゐます。最初兎殺しの人に出會つてから裏口まで兎のなりをかきついでいくまでの展開も、兎が殺された直後での二人の感情も、それから、お父さんと話し合ふまゝのお互の氣持の動きも、すべて對話をまはして十分に活寫されてゐます。作の最中心的な、兎を殺す場面も、よく陰影的(繪にたさへればほんやりした繪さちがひ、影さ光さ色さが微細に交錯して、事象をくつきりさ、かきうかべてゐるのまゝ同じく、こまかく、浮んでゐる印象づよいといふ意味)に寫し出されてなり、すべてが目のまへに見えるやうです。どん／＼おちる黒い血が夕日できら／＼光るまゝ叙寫なぞ

も、いかに實感がみなぎつてゐます。少年の純情から、兎の殘酷な死をあはれむ同君の氣持もよくしんみり出てゐます。叙寫のたしかな作です。

最後の船橋はる子さんの「隣の人」はかなり複雑な対象(うつさうとする事から)をよくまじりまじりて叙寫してゐます。兄公の「萬ふ」といふのは、あゝした低能のまゝをいふ方法でせうが「萬」だの「ふ」だのまゝ、言葉そのもの、意味が分りません。しかしまゝか、その兄公なる特種な、あはれな子まゝものを、上手に立體的に寫しあがいてゐますかういふ叙寫を綜合叙寫と呼ぶことにしますつまり、事件を進行的に移す(まゝに批判した四つの作のまゝがそれです)のまゝがつて、兄公の平常のすべての行動や事情をまゝさめならべて、その全體を寫したもので、かういふ叙寫は中々むつかしいものです。この成功は、綜合と言つても抽象的な綜合でなくすべての叙出が、短いながらも進行的な叙寫になつて具象されてゐるからです。たゞ一つこの叙出者の立場としてをかしいのは「兄公は晩になるまゝつとも寝ない。みんなが寝るまゝつとも寝ない(中略)中のものをなくしてや／＼に(中略)夜中寝ないのださうである。」です。これは「夜中寝ないのださうである。」とかくのが實實でせう。はる子さんが、兄公

の家へ行つて夜中寝ないで兄公を觀察したのではない筈です。直接見ないことを直接の叙出にするのは變です。しかし、これは、ごうでもい、やうな小さなまゝです。

なちさんも兄公たちも、かはいさうに、突然なばさんににげられてしまひ、なちさんは家をた、んで、故郷へ歸つてしまひ、あすこの「仕方がないので私のうちへ来て」から最後までの、家をた、み、みんなをつれて出て行くすべての叙出は、まゝに言つた進行的な事から(時間的についでにゐる、たゞへば、活動寫眞のまゝ、くりひろげられていく事件)の描寫で、かういふのを綜合叙寫にたいして展開叙寫と名づけませう。そのまゝすべて、まゝにまゝつてさり上げるまでもなく、すべてが、よく印象的に活寫されてゐます。全一篇は人生の或暗影をまがいた、一つの券證(人生といふものは、こんなものであるといふ、一つの證據的な記録)で、しぜんのすぐれた短篇小説です。表出もしつかりしてゐます。「およめさま」を並んで近來での傑作です。

### 自由畫選評

山本鼎

「赤い鳥」が復活して、再び集まつて来る諸君の繪を見ることはとても嬉しい。ずるぶん澤山集りました。特選、選外佳作、選外の三通りに別けた繪が、坐つてゐる僕のみはり一ぱいでせう。では例によつて、入選畫の短評をやりませう。

「雪の風景」森川勝幸君畫。鉛筆のスケッチです。寫生の氣合が活潑で筆致にやわらか味のあるい、スケッチです。しかし雪の風景の印象はありません。それから、前景が見かたも描き方もぞんざいでいけない。全體としては、相かはらず、調子(トオン)の觀察が不足です。立體的トオン、遠近のトオンといふ風に二方から注意してお描きなさい。このトオンといふことについては先生からよく説明しておもらひなさい。

「お食事」高田竹四郎君畫。これはその場の寫生ではなく家庭の風俗を記憶のまゝに描いた寫生畫です。メンの使用もまうまい色の施しぶりもまうまい。壁の魚の模様は、實際の壁紙の模様ですか。高田君今度、巻紙にでも障子紙にでもよいから「繪巻き」を描いて見せてくれ給へ。日本紙の場合はメンでなく、毛筆で描くのです。畫題は、君の朝から夜までの行動でもいいし、春夏秋冬の事でもいいし、運動會や遠足の續きものでもよろしい。「ゆず」保高莊一君畫。鉛筆で素描して、

その上に水彩したものです。描き方は達者だが研究心の乏しい寫生です。そのためパツクの色も不調和な浮いた色だし、影も寒い、うその色です。もつと實際を観察して、眼に見た趣を描き現す努力をして御覽なさい。

「人物」高森淳夫君畫。形はしつかり描けてゐますが、陸日向の見かたが足りません。だから、物を現した線が目立ちすぎて、うるさい感じを與へます。

「ゆきふり」高橋ミエ子畫。雪の日は人々の姿がはつきり見え、着物の色含などが深味をおびて見えますが、この繪はさうした印象をつかんでゐますね。

「水鳥」杉田隆吉君畫。流暢な描きぶり、色彩の味もよろしい。だが、もつと突つ込んだ寫生を見せてくれ給へ。

「かるた取り」山田みよ子畫。圖取りに面白味がある。

「えき」田原春君畫。のんびりした、よい畫風です。お園子のやうな人物だけ、それゝゝ活きてゐるから面白い。

これから毎號課題を出しますから、課題の繪も送つて下さい。勿論課題外の繪も喜んで選び出します。課題の繪で入選したものには賞品をあげます。

最初の課題「まるいもの」。まん圓いものでも、長い圓いものでも、とにかく圓いなら

なんでもよろしい。締切は十二月三十日。賞品はクレパス十六色入一箱と、クレイヨン十二色入一箱の二つづつ。

△

▽「赤い鳥」會岐阜縣支部 同縣稲葉郡(岐阜市外)長良小學校内に「赤い鳥」會岐阜支部が設立されました。同縣の「赤い鳥」推薦者の主なる方々は左記の諸氏です。(記者)

- 稲葉郡長良小學校長 石黒 誠一殿
- 岐阜日々新聞社 小木曾旭光殿
- 女子師範附屬小學校主事 小川 卓爾殿
- 男子師範附屬小學校訓導 川口 半平殿
- 岐阜市梅林小學校長 加藤 氣作殿
- 同市明德小學校長 横山 廣利殿
- 女子師範附屬小學校訓導 横山 普殿
- 稲葉郡本莊小學校長 高木 英一殿
- 岐阜縣視學 梅澤 英造殿
- 岐阜市白山小學校長 大野 丈助殿
- 男子師範附屬小學校主事 山崎 久藏殿
- 岐阜市本郷小學校長 馬淵 孝一殿
- 安八郡神戸小學校長 寺澤 新作殿
- 岐阜市學務課長 東前 豐殿
- 同市原町小學校長 佐藤貞治郎殿
- 岐阜縣教育會幹事 宮崎 牛助殿
- 岐阜市金華小學校長 關谷 國治殿

▽「赤い鳥」會廣島縣支部 廣島縣では左記

- 廣島縣視學 同 大學殿
- 同 中村 喬殿
- 廣島縣社會教育主事兼視學 日原 範一殿
- 同 澤原 正登殿
- 同縣視學 小川 士郎殿
- 廣島縣教育主事兼視學 野平 正男殿
- 同縣視學 佐藤 勉殿
- 同 坪山石太郎殿
- 同 大石 靜信殿
- 同 島田 修三殿
- 廣島市學務課長 同 中色 元殿
- 同 伊藤 裕殿
- 廣島市教育課長 同 松葉宇三郎殿
- 廣島市本川小學校長 同 山田 榮一殿
- 同市觀音小學校長、市讀方主任會幹事 同 原田 智殿
- 同市大河小學校長、市級方主任會幹事 同 樽垣 兵市殿
- 廣島師範附屬小學校訓導 同 中川 金一殿
- 同市本川小學校訓導 同 川崎 政信殿

△私は「赤い鳥」の隆ながらの熱烈な愛讀者の一人でした。御再刊を心からお祝ひ申し全児童のために鈴木先生に感謝いたします。私

は「赤い鳥」につきましてはいつもたゞ一つ残念に思つておましたのは、どうも上級向きで下級の讀物が少なかつたことです。今度はせめて二三年に讀める標準にしていたゞきたいものです。それから先生の童話全集ですが私たちはあれを「黒い騎士」以下「少年王」まで全六冊をいづれも教科書に使つてをります。これらの御本に匹敵し得る童話の本は絶無であります。たゞ怒を申しませば教場用としてはあまりに大冊に過ぎ扱ひにくいこと、挿畫の少いこと、活字が小さすぎることで以前の世界童話集のやうに四六版の小冊子に分冊され一冊五十錢位のものにして下さいませと廣く用ゐられること、思ひます。それに今度分冊にもなりませんには低、中、高年向きの三種に分けて頂きたいものです。

なぜ、こんなお願ひをしますか申しますと先生こそはこの分類の出来る唯一無二の児童文學家だからでございます。永年教師として子供を扱つてゐる人のものではこの「程度」なるものが案外分つてをりません。小説がろくにかけないからと言つて児童のものなにかきこばしてゐる暴漢に至つては論外ですが菊池寛氏の童話讀本などでもあの程度的分類では私どもには決して満足出来ません。學校關係の人たちが編纂した讀本などには菊池氏のよりも以上に亂暴ながあります。いか

に児童を解せず児童文學に盲目なるかにおどろかれます。それらの低學年向、殊に幼年向の話の選擇を見てもすぐ分ります。オツパイとかアンゴとかいふ幼児の言葉を使つて、片假名でかき、筋が單純で分量が少なければ、それで幼年向と心得てゐるのですからたまりません。ギリシヤの昔に大人のための寓話であつたイソップを片假名でかいたゞけですぐに幼年向にあつてゐるのです。幼年期は韻律期です。さういふ幼児のための讀物は、すべての調子がリズムでなければならぬ。こゝろをさへ知らないのです。先生以外の人々の幼年向の表現にはこのリズムがちつともありません。「木馬」以下「赤い鳥」を飾つた先生の多くのナンセンススタイルを見たいものです。私はかういふ意味でも先生を唯一の児童文學者として尊敬してゐるのであります。

つぎに先生に感謝いたしますのは先生の上級向事實話の御寄與です。「赤い鳥」に出ました「サーモヒリーの戦」や「大震災記」だけを上げて見ても、何といふすばらしさでせう。「大震災記」にしましても、あの震災の全光景と事實をよよくあんなに要約して描出されたものです。國定教科書などでも、さうしても、先生のお手を煩はさなければうそです。上級向のものといひますと、少し文學か

ぶれのした教育家はすぐにトルストイの「オランの馬鹿」をか芥川龍之介氏の「杜子春」などを平氣でさり入れてゐます。クオレの中の月並講話の如きは適當ですがトルストイ物や「杜子春」のテーマ等がどうして子供に理解されませう。兒童劇でいへば「青い鳥」でも「ペアの旗」でもすぐに子供に向くものと思つてゐるやうです。上級向讀物とは大人向のテーマをやさしくかいたものであつてはなりません。子供は大人の小さいのではありせん。子供には子供だけの世界と生活があるのです。上級用の讀物としては先生のお作を第一に推薦すべきです。

つぎに先生に頭の下るのは先生の御翻譯です。先生のお譯に接しますと原文の讀めないことを少しも悔みません。私は先生のアンデルセンやドイター物のごときも、それらの表現やお話そのもの、香味は恐らく先生の名文以上には傳へやうがないもの、やうに推察されます。多くの人々のか、れるものには名ばかりは童話でも事實女學生、中學生向きのものがあります。詩人的な人の童話にはろくなものがあります。或人のものなどはあまりに陰鬱です。子供は新鮮で明快で素朴で單純で健康です。すべてに次の時代をさ、える大木の芽の元氣があります。陰鬱なものは大人が

感心しても子供には喜ばれません。これに對し先生の童話でたら無條件で子供に與へ得られます。ごこまでも子供にふさはしいからです。多くのお作には貴いメモアがありませぬ。材料が豊富で一部面に偏してなりませぬ。最後に先生の表現についてもう一度感謝させていたゞきます。先生の幼年物のリズムのことは前に申しましたが、上級向きのお話にも實に立派なリズムが流れて来ります。いかにも子供に讀みやすいのです。大人がそのまゝ讀みかきかしてもよく耳に分るのです。ごこまには上級生にたいしても少し句の長すぎると思ふ場合もありますが、それでも句點を巧みに活用されてゐるのでよく分ります。言葉もあれほど平易であれば申し分はありません。つきには對話の絶妙さに感服いたします。童話で會話が上手にかけると人は極めて少いやうです。會話は息一つです。殊に子供の會話はさうです。先生の「銀の上着」のごときは劇の對話とて絶好の模範です。今後は童話劇もごん／＼御紹介下さいますやうに。又お願申したいのは、世界の少年少女文學をあらためて先生によつて、翻譯していただきたいこととです。「家なき子」でも「ロビンソン」でも、せめて必讀すべき世界的名作だけは先生に模範譯をしていただきたいのです。今の翻譯はあまりにひどすぎます「赤い鳥」再刊の

うれしさのあまりに、つい長々申しすぎました。(東京府野方町沼袋學問太田雄次郎) △  
 ▽本誌入選カット「猫」(自由詩欄に組入) 遊賀縣高島郡安曇村字田中 伊藤 市夫君 同「草の葉」(綴方欄組入) 新潟縣中蒲原郡龜田町下早通 小林 秀雄君 同「一家」(通信欄に組入) 作者 不明 △  
 ▽自由詩、綴方、自由畫の特選諸君とカットの入選二君に本誌をお送りしました。(記者) △  
 ▽「赤い鳥」の再刊を承りまして飛び立つやうに勇み喜び、會ふ人ごこに入會をすゝめましたが、何分にも農村のごこで生徒たちも各自に一冊づゝいふわけにまゐりませぬ。それで上級生たちが相談して一部落で數名づゝ共同で受讀することにし、代表者が入會することになりました。これですと、早くに永續いたします。各級で數冊づゝ加入するもの結構ですが、かういふ部落制度は、その各年級の子ごもたちの親和を増す利便にもなりませぬ。この組織が各町村にひろがりませぬと強固な支持が出来ると思ひます。私はこの方針で順次近村をも勧誘いたします。全會員の方々にもかういふ方法での御後援を祈つて止みませぬ。(千葉縣香取郡常磐校赤羽郁)

△田舎にゐる私の知人は相當學識のある人ですが、今「赤い鳥」の復刊を報じ、長女のために入會してもらつたやうに頼みしたごこち、娘は今年女學校の二年生なので少年少女雜誌はもう不向だといふ返事が來ました。ごぶんの知人の恥をさらすやうでわるいかも知れませぬが、これについて思ひますごこち、かういふ分らない大人の人のごこちよりも、まづ、只今の女學生諸君の中で「赤い鳥」を讀んでる人がどれだけあるかといふ問題です。「赤い鳥」のあるごこちを全然知らない諸君も多數ですが、たごへ目にふれても、單なる少年少女の雜誌として讀べつし、ごぶんはもう女學生だから、こんなものはご言つて讀みない人も多いのではないかと考へるごこち、むしろその人たちのために情なくてたまりませぬ「赤い鳥」こそは實に母性の修養のために御婦人の方々のごび受讀せられるべき雜誌ではないでせうか。現に持つてをられる、將來もたれるべき愛兒のために「赤い鳥」の藝術ごあの兒童の作るすばらしい藝術の感化をうけておかれたいはうです。ごいふ私は三十に近い現役の兵隊で「赤い鳥」を唯一の慰安にしてるものです。(無名) △

ごをお喜び申上げます。私は教室に立てこもつて生物をいぢつてをります。生物學上のことについては便宜をもつてをりますので、もしその方面の常識養成に御必要がありましたら御利用下さいませ。お役に立つごこちもございませぬら、出来る限り御助力申し上げます。私は初級以來の愛讀者です。(京都帝大文學部動物學教室、筒井嘉隆) △

▽私は廢物利用その他の子供服の考案のみを見ますために或いやな婦人雜誌をこつてをります。こんな雑誌は家庭のものに見せたくありませんので、子供服のこころだけちぎつてあごはふる場の釜の中へつっこみます。それで思ひますのですが「赤い鳥」へ子供服の造り方をお入れ下されば、多くの人が喜ばれ「赤い鳥」の愛用者がそれだけふえはしませんでせうか。(神田、よし子の母) △

▽發行の御通知に家庭参考用記事、兒童の復習法、學科問題等もお加へになるやうに仰つてゐましたが、失禮ながら、私の希望を申

**社告**

本誌の會費を大急お拂こみ下さいますやうに。月末に二月號をも作り上げますので、一月號と共にその號

しますご、そんなものは出来る限り少くなさつて(出来るなら全然よしていたゞきたく存じます)それだけを童話、童話にまはして下さり、「赤い鳥」本来の體面を御持下さりたいと思ひます。(東京府野方島範附屬小學校訓導、綿貫數夫) △

▽「赤い鳥」復刊のお祝ひとして私の作曲二篇を奉呈いたします。まごまらないものでござらぬにたたませば幸甚です。(××) △

▽御誠意を厚く拜謝いたします。但しあの歌詞は通俗な作で曲がいかによくて、あれでは誦はせる價值がありません。御作曲下さるなら、北原先生の童話か「赤い鳥」で特選された作品をお選び下さいますやうに。世間の作曲家にしても、北原先生の作に附曲するごと思ふご、つまらない人の駄作に作曲して、ラヤオで放送されたりするのに任してをります。あまりに無見見と思ひます。多くのかたの御参考にもなりますので、費下へも非禮を犯して、ぶちまけて申上げます。(記者)

分のも支拂はればなりません。何卒二月號の會費もお早くお願申します。振替は確實に着きますので受領書はさし出しません。

- ▽綴方選外佳作 ○北海道谷鏡子○愛媛柏木房子○北海道土村弘○同小笠原ごも○同松田千枝○秋田齋藤よね○同栗盛ひで○秋田西村秀○山梨植松正○同深澤齊磨○北海道成田きみ○栃木大山ごみ子○山梨田中忠重○同清水育郎○長野北澤百合○同神谷榮○同中島敏子○福井野野綾子○長野中島ふく江
- ▽自由詩選外佳作 ○横濱竹内市郎○千葉櫻澤芳夫○同峰谷勇二○同宮本晃○同井戸山志津○同高橋豊○同松戸なつ○宇都宮清水澄子○横濱関口八郎○同阿部孝一○同田邊泰吉○東京宇田川喜平○同宇田川清水○同市田壽子○山形山川真一○同峯田秀經○福岡寛嘉一郎○同田原泰○同久良知章悟○田中芳子
- ▽自由畫選外佳作 ○福岡石井精三○群馬高橋南光○北海道山口幸雄○同高橋豊○静岡佐野豊○福岡田原泰○同林幸二郎○同關皓○同林幸二郎○同久良知章悟○同石井精三○新潟佐々木ごで子○同大瀧羊三○同北澤榮治郎○同田下修道○東京小牧昌徳○同小島雲江○長崎田中榮吉○群馬田村榮一郎○同前木けい○同小野うめ子○同金井ふさの○北海道澤田倉之達○同八島幸司○同瀬戸良治○同松田房雄○山形齋藤真一○北海道野村よし五